

世界展開力強化事業帰国報告書

ブラジル・サンパウロ州立大学 ESALQ

国際農業開発学科

飯塚汐

はじめに

2018年8月6日から2019年7月17日まで世界展開力強化事業のプログラムを利用してブラジル・サンパウロ大学ピラシカバ校 ESALQ へ留学した。

私はもともとブラジルや中南米が好きで協定校が多い農大に入学した。1、2年生のころは留学でなく実習でも良いと考えていたが、農大で学ぶうちに違う価値観や考え方から自分の考えを吟味したいと思い留学を志した。長期留学に向けて3年次に短期留学プログラムに参加し、ブラジルの広大な土地や文化、学生や農家の日本とは異なる考え方を知りとても面白いと感じたため留学先にブラジルを選んだ。

今回の長期留学の目的はポルトガル語の習得と、農大で農家経営や地域開発について勉強してきたためそれらについて学び改めて考察することであった。留学留の活動について、学生生活、課外活動でそれぞれ項目ごとに分け報告する。

学生生活

授業履修

学期は1学期(2月中旬から6月末)、2学期(8月から12月上旬)であるためブラジルに到着した際には2学期の第2週目であった。はじめの学期は有意義な留学生活を送るため「基盤づくり」を意識し重点を置いた。私は経営学科1年生のマーケティングIという授業を受講した。この授業は週2コマでマーケティング入門について講義とグループワークという形式で行われ、担当教授の研究室の大学院生が共に授業を受け授業中英語で説明をするなどサポートをしていただいた。また、事前に授業資料を受け取れ、大学のポータルサイトに授業の教材が提示されたため予習・復習ができ、授業に食らいつき勉強のリズムを作ることができた。この授業のグループワークでは最終目標として実際に企画したモノを販売するという収穫祭のようなイベントで各グループが出店した。私のグループはアイスをクッキーで挟んだ cookie'n cream という商品を企画、製造し販売した。商品企画では実際に試作しコスト計算を行ったりインスタグラムを利用した広報活動を行うなど他ではなかなかできない経験をする事ができた。ポルトガル語に自信がなく積極的に参加することができなかったことに少し後悔が残るが、勉強する機会がなかったマーケティングの基礎をじっくり勉強でき、収穫祭での経験など今まで活動してきたことが役に立つと実感できた

ためとても有意義な授業であった。

今回の留学では目標の一つとして語学の習得を挙げていた。留学前に日本へ留学しているブラジルの学生と勉強したりある程度文法や単語について理解していたつもりであったが、実際に授業や共同生活に求められるレベルには全く達していなかった。そのため大学内の主に大学院生向けに行われている語学スクールでポルトガル語の授業を受けた。この授業はカリキュラムに含まれないため月謝を払い受けていたが、先生が親身になって文法や文章の添削を行ってくださったため、授業で学んで疑問を解消しより深く理解することができ自信に繋がった。

次の学期(2月から6月)ではポルトガル語に加えて2つの授業を受講した。ひとつは留学以前から興味を持っていた家族農業と地域問題という授業で、想像していた内容とは異なったが家族農業に関する考え方や定義の違いから日本とブラジルや他国の違いを意識する授業であった。もうひとつは経済学部のアグリビジネスの授業を受講した。この授業ではマクロ経済やマーケティングの内容を含んでいて難しいと感じることも多かったが、企業に勤めている卒業生が実践形式の授業を行ったり毎回グループでプレゼンを行う機会があるなど、より発展した内容を学ぶことができた。

学生団体：GESP

短期留学プログラムでいくつかの学生団体の発表を聞く機会があり ESALQ ではたくさんの学生団体が活発に活動していることに魅力を感じ、留学先に決める要因のひとつとなった。1カ月が経過し生活に少し慣れた頃、語学面で授業を受けるのが難しいがこれまで学んできた内容に関する勉強がしたいと思い、GESP(Grupo de extensão de São Pedro)という学生団体に入った。GESPは主にサンペドロ(ピラシカバ近郊の町)の農家と会話を通して実際の農家の問題を知り、解決に向け取り組むことで学生の新たな学びの機会となることを目的としている団体である。この学生団体での活動を通じ私も実際に近郊の農協や農家などを訪問することができた。授業でもなかなか農地視察する機会はないため、この学生団体に参加できてとても良い経験となった。

ESALQでの学生生活

私が ESALQ に留学する決め手となったのは短期留学の際に広大なキャンパスとヘプブリカでの学生生活に魅力を感じたからである。キャンパスは自然豊かで広大で私は授業がない日も散歩も兼ねて図書館を利用するなど毎日通った。ESALQは歴史ある学校のため他のブラジルの大学と比べても異なる独特な文化があり、1年生が入学する新学期は特にたくさんの学生によるイベントが行われた。多くある伝統の中でも特に有名なのは、1年生は入学してから約3か月間は外出時に麦わら帽子を着用するというものがありとても興味深かった。

今回の留学において最も思い出深いのはヘプブリカ(学生シェアハウス)での共同生活とソフトボールである。私は留学中 Cupido というヘプブリカに現地学生7人と一緒に住んでいた。アパートの部屋を割っている学生もいるが多くの学生がこのヘプブリカというシェ

アハウスに住んでおり、値段やシステムだけでなく各ヘプブリカによって全く性格が異なっていた。Cupido は女子のヘプブリカの中で最も歴史が長く、日系の方が始めたため卒業生のシュハスコなどで多くの日系の方と知り合うことができた。ヘプブリカを通して語学向上につながっただけでなく、ヘプブリカ同士で交流イベントを行っていたため多くの学生と知り合うことができた。留学前は共同生活に不安を覚えていたが、全員がとても優しく面倒を見てくれたおかげで楽しい留学生活を送ることができ、素敵な友人を得られてとても嬉しかった。

私は授業を数コマしか受講しておらず学生と知り合う機会が限られていたため、ソフトボールを通して学科、学年を越えて仲間として仲を深めることができた。授業がなく、予定がソフトボールの練習しかない曜日もあった。ブラジルでは全くメジャーなスポーツでないため大学で始める学生が多く最初は数名しかメンバーがいなかったが、勧誘や様々な企画を行うなどして1年間で最終的に試合ができる人数まで増えて達成感を味わった。仲間と練習後にアイスクリームを食べたり、芝生を土のグラウンドに開拓したり、キャンパス対抗の試合に出たりと忘れられない青春の思い出がたくさんできた。

インターシップ、課外実習

12月から2月中旬まで長期休暇を利用して、ホライマ州、パラ州、ゴイヤス州で実習及びインターンシップに参加した。

ホライマ実習

ホライマ州はブラジル北部のベネズエラとの国境に位置する。長期留学以前に海外農業実習の受け入れ先であった外館先輩にお世話になり再び実習をさせていただいた。外館先輩の農場は州都から220 km離れたベネズエラ国境沿いの町にあり、主に有機野菜を生産している。生産者自ら州都のスーパーマーケットに卸したり市場の直売所で販売している。私は野菜の収穫、播種、除草、肥料づくり、チーズ生産、出荷調整および直売所の手伝いなどの作業を行った。直売所での販売は私にとっても実際に消費者の意見や嗜好を知るためのよい機会であった。前回はベネズエラ難民のニュースに興味を持っていたためホライマを選び、実習を通してベネズエラ問題以外にインディオ保護区の影響などブラジル国内で比較しても特異な問題があると学び、長期留学時に再び実習したいと計画していた。ホライマの実習では2回目であるためブラジルの同じ地域における時期による違いや新大統領の影響などまた違った新たな角度から農業経営について吟味し学ぶことができた。

パラ州インターンシップ

1月1日から19日までパラ州でのインターンシッププログラムに参加した。私は短期留学プログラムで一度パラ州を訪れていたのが今回が2回目の滞在であった。はじめにベレンで佐藤卓司氏が代表をされているASFLORAのプロジェクトに同行させていただき、川辺の村で生活する集落を視察した。その村では環境教育プログラムやアグロフォレスト

リーシステム導入による現金収入取得支援などを行っていた。またホームステイを通してハンモック生活やアサイーなどアマゾン地域の生活を体験した。トメアスは2度目の訪問であり、今回は自身の卒業論文課題としているカカオの産地認証(IG)の調査と坂口氏のアグロフォレストリー農場での実習が目的であった。

卒論調査だけでなく前回抱いた疑問を解決し吟味することができ、アマゾン特有の文化や農業における問題など新たな発見もあり貴重な経験となった。農大の先輩方にとってもお世話になり、通常見られないものをたくさん見ることができ様々なことを学んだ。

ブラジル近郊の農業視察スタディーツアー

アメリカ・オハイオ大学のブラジル農業視察プログラムに同行させていただき、セラード地域の大規模農家や農業関連機関・企業を見学し、世界の農業生産の最前線を見ることができた。企業でも農家でも英語が堪能な案内人がおり、訪問先ではすべて英語で説明を受けた。耕地面積が4000haもある農場を見学した際には敷地内に食堂や労働者のアパート、機械修理庫、巨大倉庫などもあり、今まで見たことがなかった農業の形態を知った。このツアーで改めてブラジルにおける農業のあり方の違いを感じ、そしてアメリカの学生との意見交換を通して今まで考えたことのなかった世界的農業大国としての考えを学んだ。

ニアグロインターンシップ

学期終了後、ニチレイブラジル Niagro でインターンシップに参加した。ニアグロはアセロラ製品を扱っており、インターンシップでは2週間かけ果実生産から工場内の各部署、そして販売まですべての部門の業務を見学した。私のブラジル留学最後のイベントであったため、社員の方々とのコミュニケーションやプレゼンテーションを行う中で、留学を通して自身のポルトガル語能力が向上したことを実感した。このインターンシップを通して海外進出する日系企業の考え方やブラジル人の仕事に対する考え方、国際市場についてなど学生の視点を離れ吟味することができた。またロジスティックスについてセハードと東北部の考え方の違いを学び、日本とブラジルだけでなくブラジル国内の比較も行うことができた。

旅行

ブラジル留学中、長期休暇に加えて1週間程度の休暇が度々あった。しかし最初の学期は直前まで休暇日程を知らず旅行スケジュールを組む時間がなかったため、他の州など遠方へ旅行に行けなかった。それでも友達の家で誕生日パーティーに参加させてもらったり、サンパウロを案内してもらい観光したりと楽しい休暇を過ごすことができた。後学期は生活にも慣れ、ブラジルの交通や観光事情にも知識がついたため、帰国までにできるだけ多くの場所に行けるよう積極的に旅行を計画した。

カーニバル休暇(2月中旬)はサンパウロでサンバショーを鑑賞し、以前から興味があったサルバドールを旅行した。ブラジル東北部はアフリカ系移民の文化が残るため料理も工芸品も異なり興味深かった。サルバドールのカーニバルは会場でショーを行うのではなく、旧市街では街中を地元の太鼓隊がそれぞれ仮装して路上パフォーマンスを行っていたり、海

岸部ではアーティストのライブパレードがあるなど参加型のイベントが多く、どこもとでも活気があった。

イースター休暇(3月)はマツグロツソドスル州のボニートを観光した。ボニートはブラジルで有名な自然観光地であり留学前から旅行したい場所であったため、透明度の高い川をシュノーケルで下るツアーに参加したくさんの魚を間近で見ることができて感動した。また、授業が休講だった週を利用してサンタカタリーナ州の望月先輩、北澤先輩を訪ねた。標高が高いためサンパウロと比べても涼しく、イタリア移民が多い町であるためワインや加工肉などブラジルに居ながらヨーロッパを感じた。

特に私が魅力を感じたのはリオデジャネイロである。渡航前はとても治安が悪い危険なイメージを持っていたが、街並みは歴史ある建物もあり海と山の自然的景観も美しくとても素敵な街だった。天気が悪く有名なイパネマやコパカバーナのビーチを堪能できなかったのは残念であるが、それも含めてもう一度行きたいと思うほど好きになった。

旅行や実習などで様々な場所を訪れ、それぞれ気候や景観などが異なり改めてブラジルの広さを実感した。サルバドールには黒人系のアフロブラジル人が多く、南ではヨーロッパ移民の白人系、サンパウロでは様々なイベントでたくさんの日系の人々と出会った。見た目はとても多様性に富んでいるが性格は全員ブラジル人であるから面白いと思った。“多様性”について言葉ではよく聞くが、ブラジルでは多様性が目に見えて理解できた。

おわりに

留学を終えて、もっと早く留学したかったという気持ちもあるが、4年生で留学したからこそやりたいことや学びたいことが明確であったし思い残すこともなく留学に専念できたとも思う。長期留学前に短期留学やブラジル農業実習を通じて、ブラジルの農業において高齢化や後継者不足など日本と同じような問題があると感じたため自身の研究について吟味する良い機会になると臨んだが、ブラジルや海外の学生との勉強量の違いを痛感し私は特に栽培や作物などの基礎知識が劣っていると実感した。そのため基礎をもう一度勉強し基盤を整えて、農業分野においてこれからも広い視野で学び続けたいと思う。

留学中、今まで一生懸命取り組んでいたことを実際に自身のスキルとして役立てることができて自信につながった。今回の留学では学問の発展や語学習得だけでなく、長かった自分探しの旅に一度区切りをつけ自分を取り戻すことができた。

留学に際して様々なお力添えを頂きました国際協力センターの皆様、特に酒井さん、マイさんに深く感謝致します。また、伯国農大校友会の先輩方には、現地での生活からインターンシッププログラムや実習についてまで大変お世話になりました。今後は私も後輩に還元していけるよう精進します。本当にありがとうございました。最後に、留学にあたりサポートしてくれた家族、友人をはじめ全ての人に改めて感謝申し上げます。



図 1 伯国農大校友会館



図 2 República Cupido

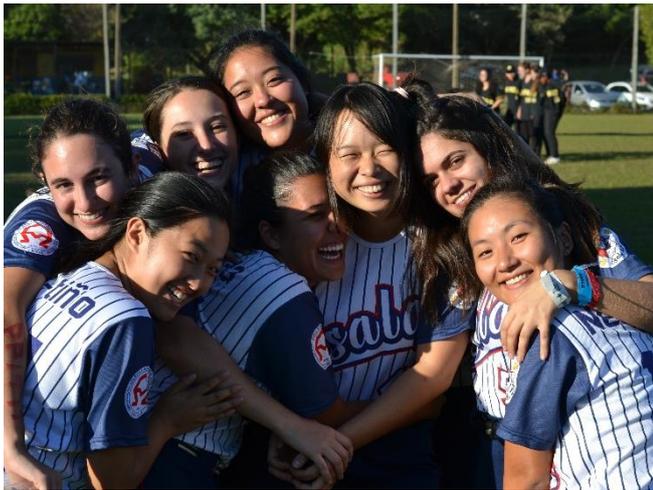


図 3 ソフトボール部



図 1 学生団体 GESP